

江北の四季

令和2年
5月24日
第8号

○今朝は「花疲れ」で八時頃起き出しました。昨日の土曜日は、午前中は我が家の庭を見に来られた方の案内、午後はガーデナーの金魚の糞(ガーデナー)心得という名刺がほしい)となって他家の庭ニカ所を訪問しました。どの庭も主は奥様ですが、裏方の夫君(ふくん)の努力の跡が素晴らしい。花々よりそちらの方に興味関心が行ってしまします。どの庭もそれぞれ個性があり、夫婦関係も垣間見られてこれもまた面白いものです。



写真はお客様が来られる前に大急ぎで生けた花。上は昨日枝を透いた楓を残

しておいたものを利用。左はアヤメ。葉はばらすと生けられないので葉付きをそのまま使った。葉は思うようにしごけないので難しい。



下駄箱の上も夏蠟梅(ナツロウバイ)を一枝採ってきて入れただけのもの。花のカハ割は大きい。



夕方早い目にお風呂に入り、「花疲れ」の心地よい疲れを取ったつもりでした。我が家での風呂も一週間振りです。昔のユニットバスだったので断熱がいまいちで目地もカビで黒くなってきたので、老後のヒートショックに備えて入れ替えてもらったからです。「新しい風呂に入ると三年長生きする」と思いながら入っていました。よけいに疲れが出てしまい、夜九時には寝たのですが………。

本来「花疲れ」とは「花見に出掛けたあとの疲れ」とあるので、春の季語でしょうが、今年はコロナの影響で花見には行けずじまいで、この初夏の時季に使うことになりました。

○第二十二候、小満、蚕起食桑(かいこおきてくわをくう)です。小満とは全てのものがかしだいに成長して、天地に満ち始める頃を表した言葉だそうです。昔は農作物の出来不出来は生死に関わるものです。生活するには暑いのはいやですが、この暑さが梅の実を育て麦の穂を膨らませてくれます。もう少しで収穫ができる、田植えができる、と胸を撫で下ろす時期だったのでしよう。

そしてこの時季は、私が子供の頃は「蚕あげ」で忙しく、子供も農家の一員として働きました。この湖北では養蚕のことを「お蚕さん」と言っていました。我が家では春蚕(はるこ)、夏蚕(なつこ)、秋蚕(あきこ)と年三回飼っていました。その春蚕が五月初めから下旬にかけてでした。蚕は四回の脱皮を繰り返した後、繭をつくり、蛹(さなぎ)になります。後半(第五齢)はものすごい食欲で桑もり(桑の葉を摘むこと)と糞を取り除く作業が大変でした。十日近く食べ続けた後、突如全く食べなくなり体が鉛色に透き通ってきます。こうなると「蚕あげ」です。蚕は透き通って繭を作る時季になると上へ上へと上がる習性があります。食べている桑の葉の上に大きな編み目の網

をかぶせると、繭を作りたい蚕が上がってくるので、それを捕って繭を作りやすくしたわらで作った床へ移すのです。今は懐かしい家族労働の思い出です。



タニウツギ



右はどちらも谷空木。数年前、山際をドライブしていたときに美しく咲いていたので、一枝持ち帰って挿し木したものです。明日には生けないといけないですね。



左上は「白地に赤く、日の丸染めて、ああ美しや、日本の旗は。」(文部省唱歌 日の丸の旗)です。名前はヒノマルウツギ(日の丸空木)。柔らかな甘い香りがします。もう少し咲いてきたら、一枝採ってナツロウバイの替わりに下駄箱の上へ行きます。玄関中がいい香りに包まれてくれます。

○何れ菖蒲(アヤメ)か杜若(カキツバタ)。どちらもすぐれていて、選択に迷うことのとたとえとしてよく使われます。菖蒲(シヨウブ)、花菖蒲(ハナシヨウブ)、菖蒲(アヤメ)、燕子花(カキツバタ)そしてアイリスとオクロレウカ、この中では菖蒲(シヨウブ)が別物(以前はサトイモ科、現在はシヨウブ科)で他はすべてアヤメ科だそうですね。英語ではアヤメ科のものはすべてアイリスだそうなんですが。

我が家で一番に咲いたのは大型のアイリスです。次にアヤメとカキツバタが咲き出し、今は



カキツバタ

オクロレウカが花盛りです。



手前がアヤメ、奥がオクロレウカ(葉を利用)オクロレウカには二種あり、葉を花材に使うものは青紫色の花を咲かせます。茶色の花のものは幅広の葉で厚みもあるので花材にはなりません。間違って植えたものですがかわいそうで処分はせず庭の隅においてあります。それが、我ここにありという風情で厚かましく咲いています。



使えないオクロレウカ

種類の多いのは花菖蒲で今は葉を延ばしている時季です。咲くのを心待ちに想像するのは楽しいものです。六月の梅雨によく似合います。

